



目

次

P1 地域研究センター今年度事業

P2 あおもり立志挑戦塾 外国人に学ぶ日本の素晴らしさ
青森市地域ICT利活用モデルの研究・評価を実施P3 学生による西目屋村ヒヤリングの実施
『初心者のための経済読本』を発刊P4 2010年度実施公開講座
専任研究員が中小企業診断士合格、まちなかラボの紹介

地域研究センター今年度事業

地域研究センターで今年度予定されている各種事業・研究について、簡単にご紹介いたします。

■地域資源の発掘とその発信の調査研究：東青地域を中心として

東青地域の資源発掘とその発信を行うことを中心にし、東青地域の現状と課題を明確にして産官学民の連携を通して「仕事づくりの視点」と「人づくりの視点」から「活力と魅力あふれる東青地域づくり」の実現に貢献することを狙いとします。

■地域連携に向けた異文化マネジメントの特性

ー高コンテクストコミュニケーション連携と低コンテクストコミュニケーション連携における特性と問題点ー

「地域連携」が組織力を伸ばす一つのキーワードとなっている北東北において、組織能力を最大限に活かすため、北東北、特に青森県内企業の異文化マネジメントにおけるその特性と問題点を明らかにし、中央との地域連携・企業連携に向けた、有効な異文化マネジメントに関する提言を行います。

■青森県の農林加工特産商品に関するロシア人消費者の嗜好選好調査

ロシア人消費者から青森の農林水産特産商品嗜好に関するデータをスーパーマーケットにおいて直接に収集していくことで、青森県の農林水産加工特産品製造業者が、自社の特産商品を「日本を代表する地域ブランド」としてロシア市場に売り込んでいく上での諸問題とその解決方法を研究します。

■青森県内の企業間ネットワークに関するデータ・システム整備

県内の企業成長のために必要なクラスター政策やコンパクトシティ政策に関して、本県における集積の経済性について実証分析することで、一定の知見を得ることを目的とします。また、企業間ネットワークを把握することで県内製造業の連携性と企業成長力の関係が明らかになるものと期待されます。

■地域ハイブリッドコンテンツ配信手法の研究Ⅰ

地域の情報コンテンツの配信には、様々な手法がありますが、実際に大規模なシステム構築を行うためには巨額な費用が必要であるために有効な配信手法に関して実践的な研究は非常に少ない。そこで、総務省が行う市町村単位のブロードバンド環境の構築に関連する技術的周辺域を調査することにより、実践的な研究を行います。

■地域人材（人財）育成支援のための体制構築研究Ⅰ

青森県、青森公立大学が共同で実施してきた人材育成事業である『立志挑戦塾』プロジェクトの終了後もさらに、継続して青森県の人材（人財）を養成するための実践研究です。

あおり 立志挑戦塾 外国人に学ぶ日本の素晴らしさ



地域研究センターでは、今年度も県の「あおり立志挑戦塾」のサポートを行っています。

当塾は、本県の経済や地域づくりを力強く牽引していく気概やチャレンジ精神、発想力、行動力、視野を備えた人材の育成と、これらの人材によって構成されるネットワークの形成をねらいとし、県内在住の若手・中堅層を対象とした塾です。

これまでに2年間で40名以上の卒業生を輩出し、今年度も21名の塾生が講師の講話に示唆を受け、グループディスカッションでも地域や社会の問題などを議論して自らの志を探究し、人材のネットワークを築いています。

今年度は、講師に日本在住の外国人を招き、海外から見た日本という視点について様々なテーマで語って頂いています。

第1回目は、外交官経験があり、国際社会に詳しい多摩大学名誉学長で、秋田県の国際教養大学副学長のグレゴリー・クラーク氏、第2回目は日本の古民家の復元に携わる建築デザイナー、カール・ベンクス氏、第3回目は日本の農村や環境に詳しい国連大学高等研究所のあん・まくどなると氏、第4回目は中国上海出身で、日本でソフトウェア会社を経営するキングソフト株式会社代表取締役社長 翁永飜（おうえいひょう）氏にご講話いただきました。

今年度も11月までに6回の開催を予定し、日本・地域と海外との関係という新たな視点から考察をする機会に対し、当センターでもグループディスカッションなどの支援を通じて青森県の人材育成に貢献をしていきます。

青森市地域ICT利活用モデルの研究・評価を実施

当地域研究センターでは、平成21年度末に「青森市地域ICT利活用モデル構築事業」の研究・評価を行いました。この事業は、青森市が目指すコンパクトシティの形成による持続可能なまちづくりの実現のため、(1)市民の環境問題の取組みや地域貢献活動等を支援し、自律的に継続させる仕組み(2)コミュニティを活性化させる効果的な情報の収集、蓄積、発信ができる仕組み(3)新幹線開業効果を最大限享受するため、観光客等を中心市街地へ誘客する仕組み(4)バスなど、公共交通機関の利用を促進する仕組みの構築を目的としています。そのために、インターネットや携帯電話などのユビキタス技術を用いて「人と人、まちとまち、そして人とまちをつなぐ循環型システムネットワーク」を促進させるというものです。

具体的には、青森ソーシャル・キャピタル・サービスが提供する、地域情報を発信するポータルサイト「あおぼた」内で提供されている、CO2削減エコ活動を支援する「nico-ecoプロジェクト」や、携帯電話を片手にQRコードを読み取って青森駅前を散策する「まちなかniconicoラリー」など、各システムの利用状況や今後の改善点などの評価・分析を行いました。

システム自体は前年度から稼働していた機能もあったのですが、PRの方法を変えたり新たな機能を追加して楽しみを増やしていくことで利用者が増加傾向で、新幹線開業に合わせ、他県からの旅行者も楽しめる内容にすることを目標に今後も発展が期待されます。



青森市の地域情報を発信するサイト「あおぼた」

学生による西目屋村ヒヤリングの実施 ～白神山地のふところで調査活動～

当地域研究センターでは、今年度青森県西部の白神山地に隣接する西目屋村の、今後10年間の計画である"総合計画"の策定支援を行っています。

その一環として、9月13日・14日に村民の生の声を反映するために本学地域みらい学科の学生17名による村民ヒヤリングを行いました。

ヒヤリングの内容は、村民の西目屋村に対するイメージや、暮らしぶりなどを極力村民の方たちとお話しをする中から拾い上げ、アンケート調査だけではなかなか捉えることが出来ない"生の声"に耳を傾ける方針で構成しました。

当日は時折小雨が降る生憎の天気でしたが、今年特に多かった強い日差しの中でのヒヤリングは避けることができ、比較的屋外で活動しやすく、過ごしやすい気候の中で行うことが出来ました。

学生たちはそれぞれにグループを編成し、三つの温泉施設を中心とした人の集まる場所や、グループごとに村内の各集落のお宅を訪問して、村民の方々にヒヤリングを行いました。

村民の皆様からは大変温かく迎え入れて頂き、予想以上に多くの方々からご意見を頂くことが出来ました。

ヒヤリングに貴重な時間を割いて応じて頂いた村民の皆様には感謝するとともに、学生たちも白神山地を控える山村の雰囲気と地域の人々に直接接することができ、地域の実情を考えるうえでも大変刺激になる体験が得られたと思います。

地域研究センターでは、引き続き西目屋村に対する調査・研究を行っていく予定です。



ヒヤリング中の公立大学生



『初心者のための経済読本』を発刊

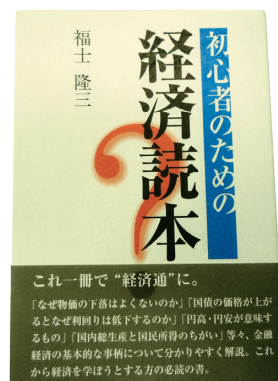
青森公立大学地域研究センター 研究員 福士 隆三

当センターの研究員でもある福士隆三教授が経済のことを一般の人にも分かりやすく解説した『初心者のための経済読本』が発刊されました。

「なぜ物価の下落は良くないのか」、「国債の価格が上がるとなぜ利回りは低下するのか」、「円高・円安が意味するもの」、「国内総生産と国民所得の違い」など、新聞でもよく見かける経済用語や概念に対して、学生や一般の方に対して解りやすい切り口で解説されています。

この著作の中で、様々な経済についての考え方が述べられた後、本質的なものとして人々の欲求は豊かさの段階に応じて進化していき、経済的な豊かさは人々の個性を触発・開花させていく性格を有しており、その意味からは経済的な豊かさの中に文化が内在していると、指摘しています。また、経済が"財の交換"であるということから、無資源国家である我が国では「人財」が根幹となり、これを重視するためにも、我が国の伝統と文化の長所と短所を認識した教育の充実が大切であることを論じています。

筆者は地元金融機関および民間金融調査機関にも在籍し、長く地域経済や国際経済に実務家として臨んでいたことから、これまでに生じたバブル経済の破綻や円高の進行などについても筆者の経験を生かした独自の観点から解説が行われており、実態的な内容となっています。



北の街社 ¥1,500 (税込)

2010年度実施公開講座

◆大学院公開セミナー

「分権型社会の自治体と住民」
～行政のあり方と高齢者福祉～

- 第1回 9月7日(火) 講師：佐々木俊介（青森公立大学教授）
新たな公共の担い手(NPO)と行政の間 ―自立と連携のあり方―
- 第2回 9月14日(火) 講師：小口 進一（獨協大学法学部兼任講師）
少子高齢化社会の福祉政策
―家庭介護力の低下で在宅ケアは不透明に―
- 第3回 9月28日(火) 講師：石川 久
（淑徳大学コミュニティ政策学部教授）
自治体改革の視点と事務事業の見直し ―難しい効率的な行政―
- 第4回 10月5日(火) 講師：遠藤 哲哉（青森公立大学教授）
分権時代の新しいリーダーシップ
- 第5回 10月12日(火) 講師：天野 巡一（青森公立大学教授）
公の領域と担い手の再構築 ―「行政」の独占時代は終わった―
- 第6回 10月26日(火) 講師：鏡 諭（所沢市総合政策部政策担当参事）
総括・介護保険の10年 ―2012年改正の論点―

開催場所：アウガ5階 男女共同参画プラザ研修室

開催時間：18：30～20：00

対 象：一般の方（30名程度）

◆『財務諸表・決算書の読解力・分析力』養う

―「財務諸表・決算書」は経営情報の宝庫である―

- 第1回 11月16日(火) 講師：藤永 弘（青森公立大学教授）
財務諸表分析の意義・役割・仕方を学ぶ
―財務諸表の見方・読み方・分析の仕方を学ぶ―
- 第2回 11月30日(火) 講師：坂下 紀彦（札幌学院大学教授）
ホーム・センター業界の財務諸表から財務分析の仕方を学ぶ
―地元企業（サンデー）と全国展開企業（ホームック）を中心に―
- 第3回 12月7日(火) 講師：落合 孝彦（青森公立大学准教授）
スーパー業界の財務諸表から財務分析の仕方を学ぶ
―地元企業（ユニバース）と全国展開企業（セブン&アイHD）を事例として―
- 第4回 12月14日(火) 講師：及川 拓也（青森公立大学准教授）
倒産企業の財務諸表から財務分析の仕方を学ぶ
―倒産企業の事例を中心に―
- 第5回 12月21日(火) 講師：石崎 忠司（中央大学商学部教授）
成長企業の財務諸表から財務分析の仕方を学ぶ
―成長企業の事例を中心に―

開催場所：アウガ5階 男女共同参画プラザ研修室

開催時間：18：30～20：30

対 象：一般の方（40名程度）

公開講座申込・問合せ

開催日前日（必着）までに受講を希望する演題名、開催日と住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、連絡先の電話番号を記入し、はがき、FAXまたはE-mailでお申込みください。（受講料：無料）

〒030-0196 青森市大字合子沢字山崎153番地4 青森公立大学地域研究センター公開講座係

電話：017-764-1589 FAX：017-764-1593 E-mail：kouza@bb.nebuta.ac.jp

※青森公立大学まちなカラボでもお申込みできます。

専任研究員が中小企業診断士合格

当センターの栗村圭一専任研究員が、21年度に中小企業診断士に合格し、合格後登録要件である企業診断研修を経てこの度中小企業診断士に登録されました。

中小企業診断士は、国認定の経営コンサルタントの資格で、多くのビジネスパーソンに評価され、難関であることが知られています。まちなカラボで経営相談をご希望の方は、ご連絡ください。

栗村研究員のプロフィール



明治大学法学部法律学科卒業。

弘前大学大学院人文社会科学研究所研究科修士課程修了。

弘前商工会議所入所 情報企画室、調査課を経て、09年1月より、青森公立大学地域研究センター研究員。
東京都出身。

多目的サテライト



青森公立大学まちなカラボ

まちなカラボは、本学の地域研究センター研究員が交代勤務しております。本学の教職員、学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口としてご利用下さい。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 青森駅前再開発ビル（アウガ）6階

電話：017-718-7025 Fax：017-776-2082

E-mail：lab@bb.nebuta.ac.jp

http://www.nebuta.ac.jp/machinaka_lab/index.html

開設時間 13：00～21：00

（年末年始、アウガ全館休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。）